

令和3年度第1回白石市総合教育会議 会議録

- 1 招集日時 令和3年11月5日（金）午前9時
- 2 招集場所 市役所 3階 第3会議室
- 3 出席委員 白石市長 山田裕一
教育長 半沢芳典、佐藤敏義 教育委員、岡崎美弥子 教育委員
小室秀一 教育委員、鈴木順子 教育委員
- 4 事務局出席者
教育委員会事務局
学校管理課 課長 佐藤哲生、教育専門監 高橋大介、課長補佐 山田せつ子
主幹 後藤順子
生涯学習課 課長 日下忠績
総務部 総務部長 山家英男、総務課長 佐藤泉寿
- 5 開会時刻 午前9時
- 6 協議事項 「白石第一小学校防球ネット支柱折損死傷事故調査答申書を受けた今後の対応に関する事項」について
- 7 閉会時刻 午前9時48分

（午前9時00分開会）

佐藤課長 定刻になりましたので、ただいまから令和3年度第1回白石市総合教育会議を始めさせていただきます。

当会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4に規定されており、地方公共団体の長と教育委員会との協議並びに調整の場という位置づけになっております。また、この会議は物事を決定する場ではなく、意見調整の場でございます。

なお、本日の会議の時間は、概ね1時間を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、山田市長よりご挨拶を申し上げます。

山田市長 皆様、おはようございます。皆様におかれましては、常日頃より本市の教育行政について、様々な角度からご意見等をいただくとともに、力強いご支援、ご協力を賜っておりますことを厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

さて、今回の総合教育会議でございますが、先月「白石第一小学校防球ネット支柱折損死傷事故調査委員会」から受けた答申に基づき、教育委員会において再発防止策を取りまとめたことから、その内容をご説明いただけると聞いております。第一小学校事故は、本当に痛ましい事故でありました。二度とこのような事

故を起こさないためにも、本日は皆様と活発な意見交換ができればと思っておりますので、どうか忌憚のないご意見等をお聞かせいただきますようお願い申し上げます。

はなはだ簡単でございますが、開会の挨拶といたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

佐藤課長 それでは会議に入ります。議長選出につきましては、「白石市総合教育会議運営要綱」第3条の規定により市長が議長となり、会議の進行をすることになっておりますので、ここからの進行は山田市長にお願いいたします。

山田市長 それでは、早速はじめに、教育委員会から「白石第一小学校防球ネット支柱折損死傷事故調査答申書を受けた今後の対応に関する事項」について説明をお願いします。

半沢教育長 私の方から説明をさせていただきます。お手元に再発防止策の資料がございますので、よろしくお願い申し上げます。本年4月27日に白石市立白石第一小学校で発生した学校事故を受け、「白石市学校事故等調査委員会設置条例」第3条の規定に基づき、学識経験者・弁護士・一級建築士・保護者代表の5名からなる「白石第一小学校防球ネット支柱折損死傷事故調査委員会」を設置いたしました。6月16日に第1回の調査委員会が開かれ、これまで計8回の調査委員会で協議が行われました。そして、10月14日の第8回調査委員会にて、「事故の要因」及び「再発防止策」について答申をいただきました。

答申によりますと、事故の発生要因は、「第一の要因」として、学校の設置物について登録の仕組みがなく、支柱設置の目的、経緯が記録されておらず、木製支柱の劣化に対する認識が欠如していたこと。

「第二の要因」として、安全点検の範囲・具体的方法、改善の仕組み等、学校の安全管理が不十分であったこと。

「第三の要因」として、支柱の用途が教職員の中で十分に理解されないまま、児童が支柱そのものや、その周りで遊ぶことが等閑視され、そのような状態が長年に渡り継続していたこと。

「第四の要因」は、教育委員会において、学校の施設管理と安全確保は、法定上は学校にあると考えられ、未登録の施設備品の有無や管理の仕組みについて、特段の措置や支援が行われてこなかったこと。

以上4点のご指摘をいただいております。

本日は、もう一つの提言であります、事故の再発防止策を中心にご説明いたします。

調査委員会からは6つの提言をいただきました。それぞれの提言に基づいて、説明をいたします。

提言1は、学校の安全点検について、児童生徒の使用実態を踏まえつつ、保護者や地域の関係者など、多元的な視点で行うというものでございます。

再発防止策を考えた際に、まず、教育委員会として必要だと考えましたのは、安全点検を含めた学校安全計画の抜本的な見直しです。これまでも各小・中学校には、学校安全計画はございましたが、その内容は、各教科や学校行事等において、「いつ」「どんなことをするか」といった、年間計画が一般的でした。しかし、それに

加え、組織的な対応を行うための体制整備や、安全点検表の内容を含めた計画の有効性の検証・改善、保護者・地域との連携などを明確に位置付けた全体計画が必要であると判断いたしました。

そこで、第一に学校安全計画の見直しを行ってまいります。具体的には、学校安全委員会を各校に設置いたします。委員会では、危険個所の抽出や分析に関する定期的な管理、学校安全に関する活動に関する協議を行います。

さらに、学校安全計画や安全点検におけるP D C Aサイクルを確実に実施するため、「いつ」「誰が」「どのように」検証し、改善策を策定するのか、計画の中に明記してまいります。

また、多元的な視点を取り入れるために、保護者や地域との連携についても計画に位置付けてまいります。例えば、授業参観の機会や仮称ではありますが、白石学校安全の日を制定した際には、その日に「危険個所の抽出」や「危険個所の分析」を行うといった活動が考えられます。

この学校安全計画につきましては、今年度中に教育委員会で案を作成し、市内各校に例示いたします。

続いて、安全管理の見直しも図ってまいります。

児童生徒の視点を踏まえた安全管理を実施するために、校内でけがをした場所やヒヤリ・ハットを経験した場所などを児童生徒や保護者等からも情報を収集し、危険個所マップ等に記していく活動を実施してまいります。

さらに、市の職員や業者等、専門家による点検を定期的に行ってまいります。点検の実施時期につきましては、別紙のとおり、市の職員による点検・専門家による点検を隔年で行ってまいります。なお、今年度につきましては、市の職員による緊急点検をすでに（4月30日）実施しております。

また、教職員を対象とした研修会を実施してまいります。安全点検の具体について、白石工業高校の協力を得て、全教職員を対象とした研修会を年1回実施してまいります。研修会の実施時期・研修方法につきましては、現在検討中でございます。なお、今年度の研修につきましては、すでに（7月15日）実施しております。

続きまして提言2に対する再発防止策についてです。

今回の事故に関して、調査委員会からは、防球ネットの設置時期・設置目的、そして設置者が不明であったことが、事故の要因であるとの指摘を受けております。これを受けて、市独自の施設等管理台帳等の整備を行ってまいります。

施設設備を確実に把握するために、これまで学校や教育委員会の備品台帳や施設設備台帳といった管理台帳に登録のないものを調査・把握し、各学校の台帳を整備してまいります。これを今年度中に行ってまいります。

また、P T Aや地元企業等から大型備品や構築物等の新設や更新、さらに撤去などの申し出があった場合には、あらかじめ教育委員会と協議することとします。その際、使用目的を終了した場合には、原状復旧することを確認した上で許可する体制を構築いたします。これにつきましては、今年12月までに教育委員会が協議書等の様式を作成し、学校と共有してまいります。

さらにこの台帳につきましては、電子化を図り、学校と教育委員会の共有ネットワークに掲載することで、情報の共有化を図ってまいります。また、そのデータは、

人事異動の際の引継ぎに活用してまいります。ネットワークへの掲載は、台帳整備後、順次行ってまいります。

人事異動の際の引継ぎにつきましては、特に校長の異動に伴う引継ぎが重要であることから、これまでも行ってきた校長の事務引継ぎの項目に安全管理の項目を設け、教育委員会への報告書にも記載を義務付けます。

提言3は、安全点検の内容や項目について、重点化の視点を持ち、計画化するというものです。

そのためには、提言1において申し上げた学校安全計画の見直しの際、専門家による安全点検について計画に明記し、重点化の視点をもって計画に位置付けてまいります。これは、今年度中に教育委員会が学校安全計画を作成し、各校に例示いたします。

さらに、教職員が適切に安全点検を実施できるよう、白石工業高校の協力を得て、安全点検の具体的な方法を記した教員向けの安全点検マニュアルを作成し、全教職員に配布いたします。これは、令和4年度中に実施いたします。

また、点検の対象物や対象ごとの点検方法、点検者等を明確にした、実効性のある安全点検表を作成いたします。また、学校安全計画の中に安全点検表の見直しを明記し、検証・改善のPDCAサイクルを確実に実施してまいります。この安全点検表につきましては、6月に教育委員会が作成し各校に例示しております。各校はこれを基に安全点検表を作成し、現在、その点検表を用いて毎月の点検を行っております。

提言4は、「引き続き、地域とともにある学校づくりを奨励し、安心・安全の確保を目指す」というものです。

提言では、「木製支柱劣化の情報と認識を除けば、児童に外遊びが奨励され教員も共にそれに加わるなど、望ましい学校づくりがなされ、地域社会から信頼される学校であったといえる」と、一定の評価をいただいております。

今後とも、保護者・地域との連携を深めるために、学校安全においても連携をしてまいります。これは、提言1の再掲になります。

さらに、学校安全に関する学校の取組について、保護者や地域の方に理解していただくため学校便りやホームページで積極的に情報発信をしてまいります。

また、提言から、学校安全に関しても教職員が子供と向き合うことが重要視されていることから、引き続き、教職員の働き方改革を推進し、教職員が子供と向き合う時間の確保に努めてまいります。そのために、毎月の勤務状況の把握、年1回のストレスチェックを継続してまいります。

提言5は、「市長が司る総合教育会議の重要審議事項に、学校安全管理に関する検討を位置付け、部局を超えた管理・点検・保守が可能な仕組みを構築する」というものです。これにつきましては、本日の（11月の）総合教育会議でこれからご審議いただきます。

提言6は、「施設管理の標準について、自治体を超えた情報共有を目指す」というものです。

これにつきましては、本市だけの取組では実現不可能であるため、事故例のデータベース化や、研修プログラムなどの自治体を超えた情報共有について、県に対し

て要請を行ってまいります。一方で、県などから情報提供を求められた場合は、これに協力してまいります。県への要請は、本年12月に実施する予定でございます。

提言に対する再発防止策は以上となりますが、教育委員会として、再発防止策を考えた際に、欠かすことができないと判断したのが、安全教育の見直しです。よって、その他として、項目を加えさせていただきました。

事故防止のためには、新学期が始まる4月・10月に、児童生徒が日常の学校生活で起こる事故の内容や発生原因について理解し、事故防止について自ら考える教育活動を実施いたします。これは、授業時数を確保し、小学校低学年の生活科やその他の学年の特別活動の学習として年間指導計画に位置付けてまいります。これは、令和4年度から実施してまいります。

また、児童生徒が危険を回避する行動を主体的に行う力を養うため、提言1でも申し上げた、「危険個所マップ」を各校で作成いたします。校内でけがをした場所やヒヤリ・ハットを経験した場所・行動について児童生徒が自ら情報を集め、危険を回避する行動について、児童生徒が考える活動を実施してまいります。

これにつきましては、本年12月末までに、教育委員会が年間指導計画を作成し、各校に例示してまいります。

以上が、事故調査委員会からの提言を受けた、教育委員会としての再発防止策でございます。

今後は、学校とともにこの再発防止策を実行し、白石市で学ぶ子供たちの「命」と「健康」を全力を挙げて守ってまいる所存です。私からの説明は以上です。

山田市長

説明ありがとうございました。それではまず、私から全体に関しての感想、意見を申し上げたいと思います。

私から教育長に事故調査委員会の設置をお願いしまして、非常にスムーズに事故調査委員会メンバーの設定、それから8回に渡る事故調査委員会の中で様々な角度から詳細に調査をしていただいて、事故発生の原因、そして再発防止に向けて意見の集約をしていただきまして、答申をいただきました。私もこの答申書を見させていただいて、非常に重く受け止めさせていただきました。この答申を受けて、教育委員会として再発防止策をまとめたことには、非常にありがたく思っているところでございます。当然、予算が伴う部分も出てまいりますので、現在、令和4年度、新年度の予算編成の時期でもございますので、しっかりと予算化しながら市としましても、二度とこのような痛ましい事故が発生することがない万全の体制を何としてもつくっていかなくてはならない、という決意を本日持たせていただきました。教育委員の皆様からは是非ご意見等ありましたら、積極的にお聞かせいただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

佐藤委員

提言に対する考え方として、非常にまとまっている。全般的に網羅されている。国の規定で文科省の方で、設置した日、木製、金属製の構造物に対しての指針が出ておりますので、設置年月日が明確であれば、ある程度市としても更新時期を計画し易いと思うのですが、ないものに関して調査してどのぐらいもたせるものか、専門家の判断が必要だろうという視点が1つと、まさかという視点がすごく必要だと思うのですが、いろいろな構造物、遊具に関しては、意見とか方策とか出ているのですが、私自身気づいたことで第二小学校の駐車場のところに桜の木が植えてあっ

たと思うのですが、その時の教頭先生からご相談を受けて、枝が枯れてきているのでどうなんだろうということで、実は音波を使って中の空洞化がどのくらい進んでいるのか調査したことがあります。それで、半分以上空洞化されているという診断結果が出たので、切った方が良いという話をして、確か切ったと思います。駐車場にあった桜の木だと思います。ですから、この間第二幼稚園にお伺いしたときも、施設にはかなり目がいったのですが、ものすごく大きい木で枝が枯れている部分があって、ちょっとした風で折れて下敷きになったりとか、幹全体でなくても枝だけでも事故が起こる可能性があります。一見すると木というのは、葉が生い茂って、穴が開いてなければ大丈夫だということがありますけれども、確か仙台の定禅寺通りで暴風で倒木したことがあると思うのですが、この辺の視点をプラスして、学校とか幼稚園もそうですが、そういった危険性のある兆候を見て、調べて、場合によっては伐採を早くに、事故が起こる前にするとか、そういった視点も必要なのかなと。トータルで言うと、まさかと思う視点にどれだけ目を付けられるかというのが大事になってくる。かなり具体的であるのですが、これよりももっと具体的な目の付けどころというか、その辺のところを加味してこれからの調査をしていただければという感じがしました。

山田市長

非常に重要な視点であると思います。当然、まさか、という事故だったと思いませんし、実際遊具等も私達大人が考える使い方以外の遊びというのを子ども達は柔軟な発想と言うか、私達大人が考えつかないような遊び方であったり、使い方だったりをするということを考えて、実際子ども達に聞くということも大事だと思うのです。どういう遊びをしているか、そういうところから、新たな危険を事前に察知することも重要だと思いますので、是非教育委員会から各校の先生方が子ども達はどんな遊びをしているのかということを知るといことも重要になってくると思います。倒木の話がございましたが、確かにおっしゃるとおり、なかなか木が空洞化になっているかどうかについては、我々知るすべもありませんが、ちょっとあれと思ったときに、専門家の皆さんから調査していただいたり、昨今の異常気象の中で、大雨、暴風、そういった状況にもなっていますので、そういう面から遊具以外にそれぞれ植栽されている高木等も含めたチェック体制は非常に重要になってくると思います。貴重なご意見ありがとうございました。

小室委員

自分は、教員をしていて、白石市内でも教諭、教頭、校長、それぞれ違った立場で勤務させていただきました。提言1の多面的な視点で安全点検を行うということについて、本当に大切なことだなと実感しています。教諭時代は、生徒と一緒に部活動をするということに熱中していて、教頭になった時には、ここで生徒がこうやって遊んでいて或いは部活動をしていてちょっとそれは危険ではないかと。校長の時には、月に1回学校で安全点検をしてチェックされたところは、全て見て回るようにしました。また、校内だけでなく、教育委員会の管理課長がいらっしゃった時に、教頭である私に、つたとかちゃんと切っておいた方が良いよ、と言われたことがあります。なるほどと思いました。東中学校で校長をしていた時は、PTAの役員の方々から、生徒の危険、命に関わることについて改善した方が良いという指摘をいただきました。東中学校で今でも表側の入り口の階段、積雪時には非常に危ないのです。そこの雪かきは生徒が来る前に私自身がやろうと思って実行しまし

た。そんなふういろいろな視点が大切だと思うのですが、この再発防止策の中に専門家による点検ということが書いてあるのですが、特に今回の事などはあの支柱について、自分がその場の教員だったら、気づいたろうかと思ってしまいます。やはり、専門家の視点を入れるということが非常に大切だと思うので、是非実践していきたいものだと思います。

山田市長

まさか木柱が折れて、このような痛ましい事故が発生するなんて、誰も想像が来ない今回の事故でございますので、何としても我々の教訓としていかなければなりません。そういう面で再発防止策の中でも、専門家による点検を実施するという項目がございます、こちらの方は白石市の責任としても実施していかなければならないと思っております。専門家だけに任せておけば良いとは思っていないのです。やはり定期的に専門家に点検していただくことによって、学校と専門家の方々との、また教育委員会との関係性というのも良くなっていくと思いますし、専門家の方からよりこういう視点で先生方見てください、というふうなアドバイスをいただくのも非常に重要で、当然市内に勤務いただいている先生方は、異動等で本市以外の小中学校でも教壇で教鞭をとられると思いますので、白石の学校で勤務したご経験を他の市や町の小中学校でも活かしていただいて、是非先生方も安全というところに関しましては、これまで以上に高い意識を持っていただくことが非常に重要だと思っております。定期的な専門家の点検、併せまして平日頃子ども達と一緒にいるのが先生方ですので、先生方への研修会等での共有は欠かせないと考えておりますので、よろしくお願いたします。

鈴木委員

再発防止策については、全ての項目が網羅されていて、素晴らしい計画だと感じました。例えば、これが管理職の先生が変わったり、先生方が異動したりということで、常に教師は危機意識を持ちながら、子ども達の様子を見ていかなければいけないのですが、意識に温度差が出てきたりということがありますので、引継ぎ項目に、校長先生の事務引継ぎ書にも安全点検の項目を設けていくというのがありますけれども、いかに継続して安全点検をやっていくのがとても大事だと感じました。それにつけても仮称ではありますが、白石学校安全の日というのを設けて、子ども達に忘れないというか、そういう危険なことがあるんだよ、ということを指導し教えていくということの大切さを痛感しております。児童生徒の視点を踏まえた安全管理の実施というところで、校内でけがをした場所やヒヤリ・ハットを経験した場所などを記録、収集していくとあるのですが、例えば、受診をした程度のけがなのか、その辺を明確にしていけないとどの程度のけがを記録として残していくのか、先生方もとても現場で困るのかなという気がするのですが、例えば、振興センター適用になったけがを全て記録として残していくのか、子ども達は、ちょっとしたすり傷、打撲、そういうけがは日常的に沢山あるものですから、その辺も明示していただくと現場としては動き易いのかなという印象を受けました。本当に痛ましい事故が二度と起こらないようにしていただけたらと思います。

山田市長

やはり、先生方の異動の中で記憶が薄れてしまうということが時間の経過とともにあり得ることなので、そうさせないために、こんな痛ましい学校事故があったことを風化させない。そのために、白石学校安全の日を制定するというのは、行政としても非常に重要なことだと思いますので、教育委員会と一緒に絶対この事故を風

化させない、そういう思いでこういった日を制定していかなければならないと思います。また、事務引継ぎは非常に重要だと思います。どうしても他人事として、例えば、国の方も今年度から行政が出す避難勧告がなくなって、避難指示1本になりました。勧告とか避難指示と聞いても、いや自分は大丈夫だろうと。日本全国様々な自然災害があって、どこどこ県は大変だね、まさかうちにはこないよね、というふうにもどうしても他人事に考えてしまう。これは人間にはあると心理学上もしっかりと分析されておりますので、例えば、年間全国の小中学校ではこういった事故が発生しているんだということを校長先生を通して先生方にも理解をしていただいて、こういった事故が我が学校でも起こりうる可能性があるんだという意識を持つことが非常に重要になってくると思いますので、文科省でそういったデータ等がもしあればですね、教育長、その辺り教育委員会でも調査をしていただいて、年間何十件、何百件とかこういった事故が発生しているんだというところで、危機感を持つということが非常に重要だと思いますので、その辺りよろしくお願いします。養護教諭ならではの観点で、どの程度のけが等を記録するのかというのは非常に重要な観点だと思いますので、現場の先生方の意見をお聞きしながら、整備をしてしっかりとした基準がないと、どうしても捉え方がまちまちになってくると、まずいかなと思いますので、その辺り精度を上げていきたいと思います。

岡崎委員

安全管理の見直しというところで、提言1とその他のところでも安全管理、安全教育の実施ということがございました。今まで教職員の方が安全点検をしてくれていて、子どもの安全のために教員が主体となるというのはもっともなことであるのですが、等閑視されてきた、見過ごされてきたというところもあって、多面的な視点、児童だったり保護者だったり地域の方からの情報収集、危険個所のマップは良いと思ってました。ヒヤリ・ハットのところですけども、子ども達自分でマップのチェックをしていくというところで、実際に目視したりだとか低学年の小さい子なんかはイメージしづらかったりすると思いますので、不安をあおるのではなく、こんなふうに使ったりすると危ないよと事例なんかも出してあげると小さい子も分かり易いと思います。

山田市長

保護者の視点から、非常に重要なご発言だったと思います。先程申し上げましたが、専門家の定期的な点検、これは絶対必要だと思うのですが、だからと言って専門家だけに丸投げするのは絶対良くないと思いますので、先生方という話も先程させていただきました。お陰様で各校PTAの皆さんのご協力をいただいて、例えば学校の清掃活動とか美化活動等にもご支援をいただいておりますので、そういう中でそういった日に保護者の方も一緒に学校の施設等を点検するというのも非常に重要になってくると思いますし、また、家庭で親子でどういう遊びをしているのか、どういう使い方をしているのか、こういうのを気を付けた方がいいんじゃないかとか、各家庭で話ができれば、非常にそれは重要なことだと思いますので、多角的な視点で物事を見るということが非常に重要になってきますので、是非PTA連合会の方にも、今回の再発防止策の内容をお知らせをさせていただいて、子ども達の命を皆で守っていこうというところで、PTAのご協力をいただけるような働きかけを是非していただきたいと思います。小学校においては、通学路をPTAの皆さんと一緒に歩いて、危険な所がないかというのを点検していただいているという話

を聞いておりますので、非常にありがたく思っております。やはり、保護者の皆さんのご協力というのは、学校としても非常にありがたいと思っておりますので、そういったところを皆で、子ども達を大人で守っていく、そういうような体制をさらに強力に推進していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

委員の皆さんからご発言いただきましたが、もしその他お話したいことがありましたら、いかがでしょうか。

小室委員 恐ろしいのは、十年後、二十年後風化してしまっ、似たような事故が起こることが考えられます。市内には良い伝統もあります。今から二十数年前、蛇淵で中学生が水死するという事故がありました。その後、教育委員会の職員の方々、校長会で夏季休業中は必ずほぼ毎日巡視をするということが今でも続けられています。今回のことについても、風化させないために、もしご遺族の方の同意が得られましたら、仮称白石学校安全の日、これを是非制定していただきたいと思っております。

山田市長 今二十数年前の事故の話聞きまして、思い出していたのですが、今でも夏季休業中に先生方が分担をして蛇淵を見に行かれたり、そういったことをされているというのは、私初めて知りまして、非常にありがたく思っておりますし、事故を風化させない、という取り組みが非常に重要になってまいりますのでご遺族の皆様のご理解をいただいて、白石にとっては大切な日を制定できるように努めていきたいと思っております。

鈴木委員 提案なのですが、折角保護者も含めて子ども達の安全を考えていくということも含めて、例えばPTAの専門部の中に、どこかの専門部の中に安全点検という項目を入れていただいて、長期休みの前ですとか、地域の安全点検の確認をするとか、そういったことなんかも自主的に保護者の方から出るのが一番望ましいのですが、そういったことをやっていけたら良いのかなと思っております。特に東中学校区の大鷹沢、大平など農村部の方だと農業用の貯水池があって、地区としては長期休みの前に小学校、中学校にここここは危ないというので、是非指導してください、ということで管理職の先生が変わるたびにマップを持ってお願いに行っているのですが、外からいらした管理職の先生方だとどこにそういう危険なところがあるのかが把握出来ていないというのが現状なので、地域との連携というのも大事になるのかなという気がしております。

山田市長 非常に重要なことだと思います。先程教育委員会の方で既に各学校での安全点検のマニュアルというのを制定して、学校でそれぞれ実施しているという報告をいただきました。是非PTAの皆さんにも、学校として毎月こういう点検をしているということをお知らせいただくことも、非常に保護者の皆さんにとっての安心に繋がるのかなと思っておりますし、そういう中でPTAの皆さんも一緒に何かの際に点検をしていただければというところで巻き込んでいくということも非常に重要になってきますし、地域との連携は重要ですので、そういった活動をしているということも各学校内で学区内の自治会とかにも学校便りを配られていると言う話を聞いたことがありますので、そういう中で学校としてこういう安全対策をしている、点検をしているということもお知らせをして、やはり地域のご理解とご協力をいただくということも重要になってくると思っておりますので、是非そういったところも教育委員会の方から学校の方に、地域の皆さんに対しての学校の取り組みの発信、ご理解とご協力をい

ただける関係性を構築していく努力をして欲しいというところもさらに伝えていただきたいと思います。

山田市長　　その他ご意見とかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、今回いただきました再発防止策につきましては、白石市としても重く受け止めさせていただいて、冒頭申し上げましたように、予算を伴う提言内容もごございますので、新年度からしっかりと実行できるように予算化の方をさせていただきたいと思います。何としてもこのような痛ましい事故を二度と発生させない、そういう思いで、行政、そして教育委員会、皆さんと一体的に進めてまいりたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。それでは、事務局から何かあればお願いします。それでは特にないようでございますので、本日の会議は終了させていただきます。議長への任を解かせていただきます。本日は誠にありがとうございます。

佐藤課長　　山田市長ありがとうございます。それでは、閉会にあたりまして、半沢教育長からご挨拶を申し上げます。

半沢教育長　　ただ今は、市長並びに教育委員の皆様方には熱心にご協議いただきましてありがとうございました。私といたしましては、再発防止策をつくったから終わりというような感覚は全く持っておりませんで、これがスタート地点と言いますか、他の自治体で取り組んでいないことも含まれていて、本市独自のものも複数含まれております。従いまして、今後これをベースにしながら、現場の声に耳を傾けつつ、子ども達の命、安全を守っていくということが使命でございますので、実効性のある再発防止策の具体を今後学校とともに進めてまいりたいと思っております。皆様からいただきました様々なご意見をしっかりと重く受け止めまして、今後子ども達の安全・安心のための活動を行ってまいります。本日は、長時間市長、委員の皆様、大変熱心なご協議をいただいたことに改めて感謝を申し上げます。閉会の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

佐藤課長　　以上で令和3年度第1回白石市総合教育会議を終了いたします。どうもありがとうございました。